

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

地域性の違いを “地元あるある”とキャラクターでPR 「兵庫五国連邦プロジェクト」始動

「日番が共通語じゃない驚き」「大判焼き?回転焼き?あれは御座候」「春はいかなご」「淡路には必ず名前を口ずさんでしまうホテルがある」こんな兵庫県の“ふるさとあるある”が飛び交う場所がある。昨年誕生150周年を迎えた兵庫県が立ち上げた、「U5H兵庫五国連邦プロジェクト」特設サイト内のエピソード投稿だ。



ふるさとの良さを再認識

兵 庫五国とは、明治以前の但馬、丹波、播磨、淡路、摂津(神戸・阪神)の旧五国のこと。同一県内での地域性の違いが、全国でも特に際立つ兵庫県の特徴を連邦国になぞらえ、「U5H」(ユナイテッド・ゴクオ・オブ・ヒョーゴ)として兵庫県を再定義した。五国には、それぞれのキャラクターも存在。“あるあるネタ”とともにキャラが登場するポスターを県内の駅や施設など約500カ所に掲示し、PRを行っている。ふるさとを思い出し、郷土の魅力を再発見してもらおうと、2月に県の広報戦略課がプロジェクトを立ち上げた。企画の意図について、広報官の湯川カナさんは、「地域を作るのはふるさとに対する想いです。そして、ふるさとはそれぞれの具体的なエピソードによってできるもの。ふるさとを思い出すことでその良さを再発見し、“子どもに伝え残したい”など、主体的な動きが生まれるといいなと思います」と話す。

な田舎。そら京の都のお隣やさかいなあ(丹波)」などと、五国民なら思わず“あるある”と頷いてしまうキャッチフレーズとともに登場するキャラクター。イラストを描いたのは、全国47都道府県の県民性を題材とした漫画「うちのトコでは」(飛鳥新社)の著者もぐらさん。同漫画では、1都道府県につき1キャラクターが原則。にもかかわらず唯一の例外が兵庫県の、5キャラクターが設定されている。明治時代、北海道を除くと他に例をみない5つの国が集まって設立された兵庫県。令制国としての歴史の長さや地理を考えると、県民性の違いからどうしてもキャラクターが複数必要だったという。湯川さんは、「県内でも他の五国を知らないという人は多い。ポスターをきっかけにふるさとの会話が生まれ、他地域を認め合う交流のきっかけになれば」と期待する。

県内外へ次々と展開 ふるさと愛を広げる

プ ロジェクトの手応えはどうか。「人口比から、反応は神戸・阪神が多いとは思っていましたが、播磨の勢いがすごい(笑)。丹波は、発言自体は控えめですが、SNSでのシェアには積極的になるなど、ここでも地域性を感じます」と県職員の能登さん。また、プロジェ

県民性が5つに分かれる 唯一の都道府県

東 西南北より海側山側。よそ行くとも迷子になる……(神戸・阪神)」「いつの間にかオシャレ



“兵庫、ふぞろいだから「愛」がある。”のキャッチコピーとともに、神戸・阪神、但馬、丹波、各エリアの“あるある”ネタとキャラクターを掲示するポスター。



大阪の「淡路」や京都の「丹波橋」へポスターを貼る広報官・湯川さん(写真左)と県職員・能登さん。



淡路、播磨のポスター。投稿から毎月新作を発表し、ウェブに掲載。随時ポスターにもしていくという。

クトを知った店舗や施設などからは、ポスター掲示の問い合わせも来ているという。さらにプロジェクトは兵庫県外へも。同じ地名を持つ地域にスポットを当て、親近感を抱いてもらう企画「君ノ名ハ、」が進行中だ。すでに大阪の「淡路」や、京都の「丹波橋」に兵庫五国のポスターを掲示。今後も各地に取り組みを広げる予定だ。また、3月からは地域の古い映像や写真を集めた「ヒョーゴアーカイブス」も開始。昭和30年代から主に映画の幕あいなどで放映されていた、県庁作成の「兵庫県ニュース」など、貴重なコンテンツをインターネットで公開している。

兵庫県の広報が、こうした「県民主役」のプロモーションを行うのは今回が初めてだという。湯川さんは、「地域のみんが盛りあがる、ここに生まれてよかつ

たと誇りを持てるような企画を続けていきたい。観光客誘致など対外的なPRとしては今のところ考えていませんが、県民が楽しそうにしている様子を外からみて、自然に観光や移住を考えるようになってくれたら嬉しい」と期待を話した。U5H兵庫五国連邦プロジェクトHP <https://u5h.jp/>



戦後の兵庫県内の様子を写した写真や動画などを掲載する「ヒョーゴアーカイブス」。 <https://web.pref.hyogo.lg.jp/archives>